

込がなく、よし出来ても價が安くないと誰れも日本品を顧みぬ傾向があるから、到底當分見込なしだといふのである。如斯事情のあるに掲はらず、和製品を廉價に供給しやうといふには、勢ひ混合物によつて量を増し、品質を悪しくするより道がないのであろう。私は、一目も早く完全なる和製品の出来る事を希望するが、同時に、舶來といふ假面をつけて需要者を欺き、粗悪なる彩料を市場に供給する、不眞面目なる商人の所爲を憎むのである。

談
片

○ 客觀的寫生は往々寫眞になりたがる、主觀を以て畫いたのでは、寫されたものがいつも同一の調子になる、繪は主觀を透して客觀を掴むものでなくてはならぬ。

○ 風景を見る、穩やかな感じだと思つて畫架を据へる、其繪は終り迄初めの感じを忘れずに畫かなければいけぬ、出來上つた繪に最初に感じた穩やかといふ心持が出なければいけぬ。

○ タトへ自分は暗い處に興味を持つてゐても、いつも暗い處ばかり畫いてゐては、終には調子を忘れて、段々眞暗な繪が出来るやうになる、自己の趣好によつて専門に入るのはよいが、時には明るい處も畫いて見る方がよい、されば暗い處を畫く上に於ても、必ず利益も發見もあらう、修業中は好きだからとて一方に片よるのはよくあるまい。